

4 父子家庭 の方へ

父子家庭は少しずつですが増えてきています。ひとり親家庭支援策の中で、父子家庭が受けられる支援策は拡充してきていますが、まだ認知・理解が進まない現状です。何もかもを一人で抱え込むのではなく、仕事をしながら家事や育児を両立していける方法を、いろいろな人と相談しましょう。各総合支所保健福祉センターの子ども家庭支援課子ども家庭支援センターで、父子家庭が受けられる支援策をご紹介していますし、父子家庭の集まりができ始めてきましたので、参加してさまざまな知恵を借りるのも方法です。

コラム 私の場合 ①

ある日突然、妻が子ども二人(3歳、6か月)を置いて家を出て行ってしまいました。仕事が忙しく、妻との会話もできないまま、妻は不満を募らせていたのだと思います。私の両親はすでに他界しており、頼る親戚もいなくて、途方にくれていたところ、上の子が通っている幼稚園のお母さんが、区の相談窓口を教えてくださいました。

そして、上の子は近くの保育園に転園できましたが、下の子はしばらく乳児院に預けることにしました。それまでほとんど抱っこをしたことがなかったため、6か月の子どもがこんなに重いのかと、びっくりしたものです。下の子を預けるときは本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、仕事を抱えどうすることもできませんでした。その間に、ひとり親ホームヘルプサービスを受け始め、ヘルパーさんが家事や育児を手伝ってくださるようになりました。子どもたちにとっては、新しいおばあちゃんができようです。

また、上の子が通う保育園の先生には本当に助けてもらっています。今回、下の子も同じ保育園に入園することができ、送り迎えも楽になりました。今は、可能な限り家事や育児を楽しく頑張っていますので、料理の腕も上がってきました。子どもたちも食事を残さず食べるようになって、とても嬉しいです。でも、僕が倒れたらこの家庭はどうになってしまうのだろうと思うと不安です。

一番辛かったのは、最初の1年でした。親子ともに寂しく、誰でもいいから再婚し、我が家の家事・育児を手伝ってほしい、精神的

な支えがほしい、と追い詰められた気持ちに何度もなりました。

しかし、今は僕たち親子の生活リズムも徐々にできてきて、職場の理解もあり、まわりのみなさんに助けられながらなんとか楽しく頑張っています。今後は、父子家庭支援組織やひとり親の集まりにも参加して、いつか子どもたちを大切にしてくれる人と巡り会えたら、再婚したいと思っています。

コラム 私の場合②

妻を不慮の交通事故で失いました。残された子どもは、4歳と2歳。上の子どもは状況がわかるだけに本当に辛かったと思います。葬儀後しばらくは、遠方の親戚が代わるがわるの手伝いに来てくれましたが、いつまでも甘えるわけにはいきませんでしたので、今後の生活をどうしていくか、勇気を出して区の子ども家庭支援課に相談に行きました。

そして、二人揃って保育園の申請をし、お陰さまで入園も決まり、子どもたちも元気に登園しています。しかし最初のころは、からだを休めたい週末に、家事・育児に翻弄され、突然妻を失ったこともあり、体力的にも精神的にも辛かったです。

現在は、区役所に相談した甲斐もあって、都営住宅に入居することができました。家賃負担が減った分、週3日保育園のお迎えから21時までベビーシッターさんに来てもらって、子どもの食事、入浴、家事などを手伝ってもらっています。

私の仕事は残業もありますが、なるべく早く帰るように心がけていますし、以前にもましてワーク・ライフ・バランスを意識するようになりました。また、ときどき泊りがけの出張がありますが、そのようなときには、ショートステイを利用しています。ベビーシッターさんやショートステイの職員の方も安心できる方ばかりで助かります。

日々の生活は大分落ち着き、充実して楽しいですし、子どもたちは精一杯頑張ってくれていますが、まわりに同じ境遇の方や父子家庭の方やひとり親の方が居ないため、何でも話せる相談相手ができればいいなあ、と感じています。

妻を亡くしてから、ときどきどうしようもない孤独感に襲われることがあります。今後は、ひとり親の支援団体、サークルなどに出向き、同じような境遇の方と知り合いになって、語り合えたらと思っています。

父子家庭の支援団体

相談先	電話番号・ホームページ・メールアドレス・備考
全国父子家庭支援ネットワーク	☎080-3197-0692 (代表・相談ダイヤル)
	ホームページ https://www.facebook.com/zenfushinet/ Eメール hibipa0907@yahoo.co.jp